

令和5年度北海道教育大学札幌校教員養成課程 編入学入試試験問題

言語・社会教育専攻 国語教育分野

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題紙を開かないこと。
- 2 問題紙は表紙を含めて7枚あります。
- 3 問題は問題一から問題六まであります。すべての問題に解答すること。
- 4 解答は指定された解答欄に記入すること。
- 5 受験番号は指定された欄すべてに記入すること。
- 6 解答は縦書きとし、指定された字数にまとめること。句読点や括弧記号等も、一字分とします。
- 7 試験終了後、問題紙すべてを提出すること。
- 8 試験中に問題紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。

得点 ( ) / 300 ( )

問題一 次の各問いに答えなさい。(合計70点)

問一 次の熟語の読み方をひらがなで書きなさい。(各2点×10問、合計20点)

- ① 時期尚早
- ② 雪溪
- ③ 安寧
- ④ 煮沸
- ⑤ 惡寒
- ⑥ 象牙
- ⑦ 怨恨
- ⑧ 唾棄
- ⑨ 瓦解
- ⑩ 脚立

【解答欄】

- ① ②
- ③ ④
- ⑤ ⑥
- ⑦ ⑧
- ⑨ ⑩

問二 次の傍線部のカタカナを漢字に直して書きなさい。(各2点×10問、合計20点)

- ① シンボクを深める。
- ② 衣服のホコロびを直す。
- ③ オクすることなく挑んでいく。
- ④ 飼っている犬をデキアイする。
- ⑤ キンサで勝ちを収めた。
- ⑥ 新しい機能をトウサイしている。
- ⑦ 神をスウハイする。
- ⑧ ウルシを材料に使った品物。
- ⑨ かけ事にのめりこむ。
- ⑩ カーテンのスソ。

【解答欄】

- ① ②
- ③ ④
- ⑤ ⑥
- ⑦ ⑧
- ⑨ ⑩

問三 次の慣用表現の誤りを直して、全体を書きなさい。ただし、誤りがない場合は○を書きなさい。また、それぞれの慣用表現の意味を書きなさい。（各3点×10問、合計30点）

- ① 足蹴にする
- ② 取り付く暇もない
- ③ 一線を隠す
- ④ のべつくまなし
- ⑤ 堅忍不拔

【解答欄】

（正しく書き直す。誤りがない場合は○を書く。）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

（意味を書く。）

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

問題二

次の傍線部について文法的に説明しなさい。品詞、活用の種類、活用形、意味用法などを、できるだけ詳しく書くこと。（各6点×5問、合計30点）

- ① ある晴れた日に、ピクニックに出かけた。
- ② 荷物をここに置いておくね。
- ③ 家から学校まではかなり遠い。
- ④ 豆腐は大豆からできている。
- ⑤ このカバンは大きいから物がたくさん入る。

【解答欄】

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

問題三 次の①～⑤に答えなさい。（各6点×5問、合計30点）

- ① 田山花袋、島崎藤村などの作家に代表される文学は、何と呼ばれるか、その一般的な名称を書きなさい。
- ② 鈴木三重吉が創刊した少年・少女のための雑誌の名前を書きなさい。
- ③ 夏目漱石の中期三部作と呼ばれている作品の中から、一作品でいいのでタイトルを書きなさい。
- ④ 『若い詩人の肖像』『氾濫』などの作品で知られる新心理主義の作家の氏名を漢字で書きなさい。
- ⑤ 尾崎紅葉が書いた明治時代を代表するベストセラー小説のタイトルを漢字で書きなさい。

【解答欄】

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

問題四 次の文章を、一四〇字以上一八〇字以内で要約して書きなさい。ただし、筆者の今現在の主張についても触れること。（70点）

○×モードの言語中枢

「日本の経済学者のほとんどが、エッ、ほんとに学問やってるの？ て感じの人が多いいんだよね。多すぎる。」

頭脳明晰、英語も日本語も堪能なモスクワ大学経済学部長のVは齒に衣着せない。実は学会で通訳をするたびに、日本人研究者の発言における語と語のあいだの関係性の希薄さについては、わたしも感じていたところなので、ちよつと突っ込んでみた。

「学問的でないというのは、どういうところが？」

「知識は豊富なんだけれど羅列なんですよ。それを体系化して現実の全体像を把握するのが学者の仕事だと思うのだが。日本は学問観が違うのかなあ」

学問観の違いというよりもつと根が深い気がする。知識観の違い、それをベースにした教育方法そのものの違いなのではないか。

三〇年以上も昔のこと。中学二年の三学期に、チェコのプラハから帰国し、地元の学校に編入させられたわたしは、ほとんどのテストが○×式か選択式であるのに、ひどく面食らった。

次に列挙する文章の内、正しいものには○を、間違っただけのものには×を記せ。

- ( ) 刀狩りを実施したのは、源頼朝である。
- ( ) 鎌倉幕府を開いたのは、源頼朝である。
- ( ) 「源氏物語」の主人公は、源頼朝である。

（次に続く）



問題五 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(合計50点)

九月廿日ほつかの比ころ、ある人に誘はれ<sup>①</sup>奉りて、明くるまで月見歩く事侍りしに、<sup>②</sup>思し出づる所ありて、案内せさせて入り給ひぬ。荒れたる庭の露しげきに、わざとならぬ匂ひ、しめやかにうちかをりて、忍びたるけはひ、いとものあはれなり。

よきほどにて<sup>③</sup>出で給ひぬれど、なほ<sup>④</sup>事さまの優におぼえて、物のかくれよりしばし見ぬたるに、<sup>⑤</sup>妻戸をいまま少しおしあけて、月見る気色なり。<sup>⑥</sup>やがてかけこもらましかば、口惜しからまし。あとまで見る人ありとは、いかでか知らん。<sup>⑦</sup>かやうの事は、ただ朝夕の心づかひによるべし。その人、ほどなくうせにけりと聞き侍りし。

注 妻戸……出入口の二枚の板戸。

問一 傍線部①・②について、a 敬語の種類、b 敬意の対象(誰に対する)をそれぞれ答えなさい。(各4点×2問、合計8点)

【解答欄】

- ① a b  
② a b

問二 傍線部③を品詞分解しなさい。単語ごとに横線を入れ、右横に、品詞と、用言の場合は活用の種類、付属語の場合は意味、活用語の場合は活用形も、それぞれ書きなさい。(8点)

【解答欄】

出 で 給 ひ ぬ れ ど

問三 傍線部④はどのようなことを指していますか。答えなさい。(6点)

【解答欄】

問四 傍線部⑤を現代語に訳しなさい。(10点)

【解答欄】

問五 この文章は鎌倉時代の随筆の一節です。次の問いに答えなさい。(各2点×4問、合計8点)  
(1) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿  
(2) ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿  
(3) ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

【解答欄】

- (1) ㉑ ㉒  
(2) ㉓ ㉔  
(3) ㉕ ㉖

問六 傍線部⑥は、作者を感動させた、ある人に誘われて行った家の主人の態度を指しますが、それはどのような態度ですか。詳しく書きなさい。(10点)

【解答欄】

問題六 次の『韓非子』の一節を読んで、後の問いに答えなさい。(合計50点)

鄭人<sup>①</sup>有<sup>②</sup>且<sup>③</sup>買<sup>④</sup>履<sup>⑤</sup>者。先<sup>⑥</sup>自<sup>⑦</sup>度<sup>⑧</sup>其<sup>⑨</sup>足<sup>⑩</sup>而<sup>⑪</sup>置<sup>⑫</sup>之<sup>⑬</sup>。其<sup>⑭</sup>坐<sup>⑮</sup>、至<sup>⑯</sup>之<sup>⑰</sup>市<sup>⑱</sup>而<sup>⑲</sup>忘<sup>⑳</sup>操<sup>㉑</sup>之<sup>㉒</sup>。已<sup>㉓</sup>得<sup>㉔</sup>履<sup>㉕</sup>、乃<sup>㉖</sup>曰<sup>㉗</sup>、「吾忘<sup>㉘</sup>持<sup>㉙</sup>度<sup>㉚</sup>。」反<sup>㉛</sup>、歸<sup>㉜</sup>取<sup>㉝</sup>之<sup>㉞</sup>。及<sup>㉟</sup>反<sup>㊱</sup>市<sup>㊲</sup>、罷<sup>㊳</sup>遂<sup>㊴</sup>不<sup>㊵</sup>得<sup>㊶</sup>履<sup>㊷</sup>。人<sup>㊸</sup>曰<sup>㊹</sup>、「何<sup>㊺</sup>不<sup>㊻</sup>試<sup>㊼</sup>之<sup>㊽</sup>以<sup>㊾</sup>足<sup>㊿</sup>。」曰<sup>㋀</sup>、「寧<sup>㋁</sup>信<sup>㋂</sup>度<sup>㋃</sup>、無<sup>㋄</sup>自<sup>㋅</sup>信<sup>㋆</sup>也。」

(注 鄭：春秋時代の国名。 度：寸法を測る。寸法書き。 操：手に持つこと。)

問一 傍線部①を、すべてひらがなで書き下しなさい。(10点)

【解答欄】

問二 傍線部AとBの読みを、送り仮名も含めてそれぞれ答えなさい。(各3点×2問、合計6点)

【解答欄】

A B

問三 傍線部②について、市が終わるまでの間、「鄭人」は何をしていましたか。説明しなさい。

(10点)

【解答欄】

問四 傍線部③を現代語訳しなさい。(10点)

【解答欄】

問五 傍線部④は、「何(a)之を試みるに足を以てせ(b)と。」と書き下します。

(a) (b) にそれぞれ送り仮名を入れなさい。(各2点×2問、合計4点)

【解答欄】

a b

問六 作者は「鄭人」のどのような点を批判していますか。説明しなさい。(10点)

【解答欄】